

秋大豆新品種「アキヨシ」について

工藤洋男・池田 稔・小林 宏・下津盛昌
(熊本県阿蘇農業試験場分場)

KUDO, N., IKEDA, M., KOBAYASHI, H. and SHIMOZU, M.
A New Variety of Autumn-type Soybean "Akiyoshi"

九州において栽培されている秋大豆は晩生種の型が多いが、中国以東では白大八輪及び玉錦クラスの中生種(IVc)が晩熟の部類に属している。従来阿蘇分場において育成した品種はすべて晩生種のVc型品種であり、近年においては中生種の要望が強かったので中生種の育種に転進し、その第1号として「アキヨシ」の育成をみるに至った。本品種の育成に直接従事した職員は丸山恵三、柏原正雄、及び筆者等である。

来歴ならびに育成経過

アキヨシは昭和29年に熊本県農業試験場阿蘇分場において、白大豆3号を母に、アソマサリを父として人工交配を行い、以後系統育種法によつて育成したものである。昭和33年から生産力検定試験を開始し、34年には系統適応性検定試験及び特性検定試験を行い、35年に九州20号の系統名を付けて地方的適否を確かめて来た結果、その成績良好であったので、昭和38年(F₉)大豆農林31号に登録、「アキヨシ」と命名され、山口県及び香川県において奨励品種に採用された。

特 性 概 要

1. 形態的特性 草勢は両親の中間で、白大豆3号

よりも1周り大型であるが、秋大豆としては短茎の部類に属する。主茎分枝共に茎太く、分枝は多枝で伸育旺盛であるが、開張性が割合に小さくて倒伏に強い。花色は紫、莢色及び毛茸色は共に淡褐色で、莢には収毛が密生し、着莢はきわめて密である。粒はアソマサリ程度の大きさで中大、扁楕円形、臍色は淡褐色で両親より淡く、褐斑粒の発生も殆んどない良質粒である。

2. 生態的特性 熟期は白大八輪・玉錦程度の中生種に属する。結実日数がやや長いので開花期が早い割には成熟期がやや遅れる。全国的に既存品種より多収性を示し、関係府県標準品種の3割前後の増収になっている。蛋白質含有量はかなり高く、玉錦にまさっている。銹病抵抗性はやや弱い部類に属するが玉錦より強く、黒痘病抵抗性は強、葉焼病抵抗性は弱い。

適地及び栽培上の注意

中国、四国を中心とした西日本の広範囲な秋大豆栽培地帯に好適するが、秋冷の早い中国以東の山間高冷地においてはやや晩熟となり、後作の支障となる。中生種の短茎で倒伏し難い品種であるから、早播効果が

第1表 選 抜 経 過

交 配 組 合 せ	年次・世代 栽植又は 選抜系統(個体)	昭 31	昭 32	昭 33	昭 34	昭 35	昭 36	昭 37
		F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈
母 白 大 豆 3 号	栽 植 系 統 群 数	—	5	6	3	3	3	3
	栽 植 系 統 数	(442)	31	30	15	15	15	15
	1 系 統 当 栽 植 個 体 数	—	72	72	72	35	35	33
父 ア ソ マ サ リ	選 抜 個 体 数	31	30	15	15	15	15	20
	選 抜 系 統 数	5	6	3	3	3	3	4

第2表 育 成 系 統 図

昭 和 29 年	昭 和 30 年	昭 和 31 年	昭 和 32 年	昭 和 33 年	昭 和 34 年	昭 和 35 年	昭 和 36 年	昭 和 37 年
交 配	F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈
母		①	③	①	3	1	9	1
白 大 豆 3 号	熊 交 43-2	⋮	⑥	3	4	⑥	⑪	4
父		⋮	20	12	7	7	13	⑤
ア ソ マ サ リ		442	26	16	9	10	17	⑧
			31	19	⑭	11	19	9

